

府中ホスピスを考える会通信 第10号 08/11/15



第6回NPO ボランティアまつり への参加にあたって

府中市民の皆様、「ホスピス」を知ってください！

小西 厚子

府中ホスピスを考える会は、私たちが住む府中に「ホスピス」がほしいと考える府中市民が2002年2月に設立した会です。

「ホスピス」って何？

「ホスピス」の語源は、中世ヨーロッパで巡礼や旅をする人を休ませた宿泊所をホスピスといい、英語のホスピタル（病院）もここから派生した言葉です。現代の「ホスピス」の最初のモデルは、1967年にシシリー・ソンドラス医師がロンドンに創立したセント・クリストファー・ホスピスです。そこは、人生の最期をその人らしく生きる医療・緩和ケアが施される病院・施設でした。私がイギリス北部の大学に滞在した1991年に、ホスピスが若い学生たちにも町の住民にも近いもので、しばしばホスピスを支援する寄付金集めの機会に遭遇しました。ロンドンのヒースロー空港には、ホスピスへの大きな募金箱が設置されているとのことでした。

日本では、1981年にはじめてのホスピス、聖隷三方原病院（静岡県浜松市）が設立されました。1993年には日本で最初の独立型ホスピス・ピースハウス病院（神奈川県秦野市）が設立されました。

1990年に厚生省（当時）がホスピスを医療保険の対象として認めましたが、ホスピスを「緩和ケア病棟」と言い換えています。現在までに、国に認可された「緩和ケア病棟」は、178施設をこえています。緩和ケア病棟への入院対象は、治療が困難になった末期がん（悪性腫瘍）の患者とエイズ（後天性免疫不全症候群）の患者です。

しかし、ホスピスは、施設の名称ではないので、病院ではなく在宅で最期をむかえる人への在宅医療を「在宅ホスピス」と呼びます。最近では、治癒の見込みのない末期がんの患者が病院から家に帰されるという状況が増えています。そこで、在宅ホスピス・ケアの必要性がたかまっています。在宅ホスピスは、がんの患者だけでなく、難病の患者や高齢者や最期を家で終わりたいと希望する人にとっても必要とするものです。

私たちの住む府中市には、「ホスピス」・「緩和ケア病棟」をもつ病院はありません。また、在宅医療を支援して下さる医師のいる在宅療養支援診療所（現在9箇所）も充分とはいえません。

私たち府中市民が、人生の最期までこの府中市で安心して生きることができるようのために、私たち「府中ホスピスを考える会」は、「ホスピス」・「緩和ケア病棟」・「在宅ホスピス」の必要性を、市民の皆様とともに訴えていきたいと思っております。

考える会は、この「考える会通信」に、活動の記録を掲載してきました。第10号は、20回から22回までの勉強会（講演会）の記録を編集しております。

第20回勉強会 要約

講演：「地域におけるホスピスケア」—患者と家族の心を支える—

講師：高野 和也氏（医療法人社団イバラキ会 イバラキ診療所 こずる所属）

元ピースハウスホスピス ソーシャルワーカー

茨城町の在宅療養支援の実情と府中市の面積や人口の比率についての相違点等について資料を見ながら解説された。また、在宅療養支援診療所の実情、組織等についての解説がなされ、これからの在宅療養支援診療所のありかたが、どんな形で求められているかを考えさせられた。

勤務の実態（130人の患者・医師5人・ナース8人・ワーカー・マネージャー4人）、訪問看護2週間に1回、週4日車を運転（医師と同行）して10人ほどの患者を訪問し、帰りは6～7時、それから事務処理等で自宅に帰るのはおそい。また、地域というのは、人のつながりがあるかどうかが大切であり、自分が他の人の役に立っていると思うと生きがいになる。

現在の緊急訪問については、24時間体制で看護師が最初に訪問し、その結果医師が必要なときは即出動する。自宅にいても、いつ呼び出しがあっても出動できるような生活である。

第21回勉強会 要約

講演：ホスピスケアにおける訪問看護の役割

講師：宮田乃有氏（府中医王訪問看護ステーション地域看護専門看護師）

I. ホスピスケアの現状

1. ホスピスケアとは何か？ 「余命が限られた不治の患者が身体的・心理的・霊的苦痛から解放され、残された日々を人間としての尊厳を保ちながら、心身ともに安楽に過ごすことができるようにするためのケア」

・ホスピスのタイプ ①独立型・ピースハウスなど：②病院付属型・桜町病院など：③在宅型・在宅療養支援診療所など。

・日本のホスピスケア：ガンによる死亡：30.1%・施設での死亡：93.6%・

在宅での死亡：6.2%（2002年人口動態統計より）、日本では②の病院付属型ホスピスが普及・全国に178カ所 3417病床・東京都に18カ所 336病床・ホスピスケアを受けられるのは数%？

2. 府中市の現状：①独立型なし ②病院付属型ホスピス（近郊）7カ所、小金井市桜町病院、日の出町日の出が丘病院、あきる野市公立阿伎留医療センター、清瀬市救世軍清瀬病院、信愛病院、東京病院、多摩市聖ヶ丘病院 ③在宅型ホスピス 在宅療養支援診療所の届け出は9カ所、高橋内科クリニック、宮西クリニック、明日佳クリニック、府中平林医院、ながた内科クリニック、府中診療所、新町クリニック、浅川医院新世クリニック。在宅療養支援診療所の届け出が＝「ホスピスケアを提供できる」わけではない。届け出以外の診療所でも対応できる可能性はある。他市からの訪問診療もある。

II 在宅ホスピスケアと訪問看護（看護と介護の違い、在宅ケアの役割）

1. 訪問看護師は何をするか？、

・どのような医療がよいのか？、病状や障害そのものだけでなく、その人らしい生活にとって必要な医療と一緒に考え医師に伝え看護を支援します。

・どのようなケアがよいのか？病状や障害の状態から、その人がもつ可能性や危険性を考えたうえで、希望にそったケアを行います。ヘルパーと訪看の連携が大切です。

2. 府中市の訪問看護：市内の訪問看護ステーションの現状 2008年5月25日現在11カ所、24時間体制4カ所（府中医王訪問看護ステーションは、常勤看護師4名、作業療法士1名いろんな先生と連携している）2007年度の在宅看取り9名（他に、最期のみ入院/ホスピス入所もあり）の実情について説明。



3.在宅ホスピスケアにおける訪問看護師の役割

①ケアコーディネーターとしての役割、②症状のコントロール、③日常生活の援助、④患者・家族の精神的ケア、⑤グリーフケア（死別の悲しみに対するケア）

<相談窓口>入院しているとき、病院の「医療/在宅相談室」：自宅にいるとき/退院を考えているとき、在宅介護支援センター（各地区）など訪問看護ステーション

東京都在宅緩和支援センターTel 042-383-6132（11時～16時） Fax 042-383-6136（24時間）

第22回勉強会 要約

講演：公立阿伎留医療センター緩和ケア病棟の現状：

講師：戸澤 育文氏（公立阿伎留医療センター緩和ケア科・医師）

公立阿伎留医療センター、緩和ケア科は、平成18年に開設され、満2年を迎えようとしている。さまざまな困難を乗り越えて、現在何とか軌道に乗ったかなという段階です。これから府中にホスピスを考えていらっしゃる皆様に多少とも参考になればと思い、創設以来の当緩和ケア病棟の歩みを発表させていただきます。その中で、ホスピスとは何か、また死にゆく人との出会いについて、日頃感じていることを話させて頂くつもりです。講演会というより、皆様とざっくばらんに話し合える場所にしたいと思いますのでよろしくお願いします。



・当院は、あきる野市・松原・日の出の3自治体の共立で公立といっている。五日市線の武蔵引田駅前にあり310病床で2年前建てかえた新しい病院である。

・ホスピスと緩和ケア科の違いは、公立のためホスピスの言葉を使わなかった。

310病床中緩和病棟は16床有り比率は高い。16床中8床が無料、8床が有料で全個室となっている。緩和ケア科は院長の熱意で平成18年8月に開設、初めは患者を集めるのが大変であった。初めは医師2名でしたが、去年4月からは私と看護師14名と助手1名で16名の患者を診ています。ボランティア、音楽療法士等は必須だが居ません。ソーシャルワーカーが地域の連携をとっている。

・入院は患者と家族を交えて面談、ガンそのものの治療はしない、延命措置はしないとの合意をとっている。現在入院待ちの患者は1～1.5ヶ月待ちで、基準は苦悩の緩和と、家族が傍にいたことが条件で、病院に預ける方はお断りしている。患者を1人にしない、告知は家族が理解していること、残された命6ヶ月以内の方を受け付けている。元気な患者はいません。安定している人には在宅をすすめている。

・統計上のこと

1年間で①八王子(60名) ②あきる野… ③府中市(12名) 府中病院からの紹介が多い。現在満室。

肺ガン40%・胃ガン15%・頭頸部ガン10% ……肺ガン、頭頸部ガンは在宅看護はむずかしい。その他可能な限り在宅を勧めます。

死亡者入院日数 ①1ヶ月未満 ②1～3ヶ月未満 ③1週間未満 ④3ヶ月以上。

理想的には②の患者で「ここにきてよかった」といわれると、私たちうれしい。

・毎日の仕事

トータルペインを除くこと。心理的・社会的・霊的に死を前にした人に対処する。痛み・症状のコントロールは個人差が大きい。期待値、日々の生活の大切さ、神経痛には難がある。いろいろな症状に対応する。しゃっくり、咳、痰、呼吸困難、精神的抑鬱等対話が辛い。70歳以上の人は精神的につよい。

不安、不眠、せん妄、抑制はしない。鎮静(セデーション)ひどいときは24時間眠って貰うことがある。そのあと2～3日の命になる。

さいごに、府中の方も何かあったら当院の地域連携室にご連絡下さい。対応します。



府中ホスピスを考える会講座実施歴

	日付	テーマ	講師	(敬称略)
特	01/10/28	がんと向きあったとき、あなたならどう生きますか	聖路加国際病院名誉理事長	日野原 重明
1	02/02/17	「ホスピスの体験から」	ピースハウス病院ナース	杉本 真由美
2	02/04/28	「在宅ホスピスケアについて」	ピースハウス病院ナース	杉本 真由美
3	02/07/14	「緩和ケアで使われる薬について」	薬剤師(元ピースハウス病院職員)	玉井 照枝
特	02/10/11	アサヒタウンズ特別講演会「日野原先生」		
4	02/11/24	「心と身体の痛みを癒すには」	くらしき作陽大学教授	篠田 知璋
5	03/05/18	地域に密着した在宅ケアについて	平林医院院長	平林 竹一
6	03/06/10	ホスピスセミナー	桜町聖ヨハネホスピスケア研究所長	山崎 章郎
7	03/08/03	「ヨーロッパのホスピス事情」	府中ホスピスを考える会副会長	市村 晴子
8	03/10/26	家で最期をむかえるためにー在宅ホスピスケアの実際	ホームケアクリニック川越院長	川越 厚
9	04/04/18	「家族の立場からホスピスケアを見る」	府中ホスピスを考える会会員	駒ヶ嶺 泰秀
10	04/09/10	輝いて生きるー人生の後半をー	聖路加国際病院名誉理事長	日野原 重明
11	04/11/07	コミュニティで考えるこれからのホスピスケア	聖ヨハネホスピスケア研究所研究員	長谷 方人
12	05/06/05	夫をガンで見送ってー入院治療3ヶ月後の不安ー	府中ホスピスを考える会会員	森山 レイ子
特	05/09/24	地域で生きるー尊厳ある生と死を求めて	聖ヨハネホスピスケア研究所長	山崎 章郎 他
特	05/10/30	いのちと響き合う絵本	ノンフィクション作家	柳田 邦男
13	05/11/26	更年期障害と子宮癌	東府中病院長	十蔵寺 新
14	06/03/26	人間のいのちと死ー終末期医療からみる	医学博士・医療法人恵風会施設長	渡邊 寛宣
15	06/05/21	千倉市『花の谷』(ホスピス)の紹介	府中ホスピスを考える会副会長	市村 晴子
16	06/08/20	NHKビデオによるホスピスに関する Q&A	府中ホスピスを考える会副会長	市村 晴子
特	06/09/09	永六輔 いのちを語る	ケアタウン小平・聖ヨハネホスピスケア研究所共催	
17	06/11/11	ときめく「命(いのち)」をいきる	青山学院大学講師	野村 祐之
18	07/04/01	さいごまで生きる施設-ホスピス-でのとき	ライフプランニングセンター所長	平野 真澄
19	07/06/24	「いのち輝かせて生きる」-こどもから老人まで	聖路加国際病院名誉理事長	日野原 重明
特	07/10/13	鎌田実 いのちを語る	ケアタウン小平・聖ヨハネホスピスケア研究所共催	
20	08/01/20	「地域におけるホスピスケア」-患者と家族の心を支える-	医療法人社団イバラキ会	高野 和也
21	08/05/25	「ホスピスケアにおける訪問看護の役割」	医王訪問看護ステーション地域専門看護師	宮田 乃有
22	08/08/03	阿伎留医療センター緩和ケア病棟の現状	公立阿伎留医療センター緩和ケア科・医師	戸澤 育文

会計より会員の皆様へのお願い 会費の払い込みをどうぞよろしくお願いします。勉強会・講演会等当日でも、郵便局への振込でも結構です。振込用紙ご入用の方は、会計までご連絡いただければお送りいたします。

会計 宇田ひさ子 042-363-9271

編集後記

第6回府中 NPO・ボランティアまつり(11月15日・16日)への参加にあわせて、会報第10号を編集いたしました。このイベントへの参加が、考える会の目的である「ホスピスについての理解を深め、終末期医療としてのホスピス(在宅および施設)の普及を目指す」(会則第1条)のために、多くの府中市民の皆様は「ホスピス」を考える会の活動について知っていただく機会になることを願っています。

「通信」編集委員 荒川京子、小西厚子、駒ヶ嶺泰秀、和田総一郎

発行元 府中ホスピスを考える会編集部 連絡先 小西厚子 042-361-2823